

未来を拓く 企業訪問

SDGsの国際目標 2030年まであと8年。地球の持続可能性は企業としても取り組まざるを得ない目標となってきました。企業責任というだけでなく、企業価値向上など、その方向性は多岐に渡ります。当社がお取引いただいている企業様の表からは見えてこない独自の取り組みについて、インタビューした内容をご紹介します。取り組み事例をお届けいたします。

株式会社浅井農園 代表取締役 浅井 雄一郎様



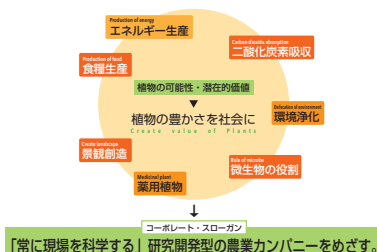
◆主な事業内容

1907年（明治40年）より、三重県津市にてサツキ・ツツジの生産を中心に操業。第5代目浅井社長が就任後、事業継続を目指し、ミニトマトの栽培・販売を開始。現在は多くの大型ハウスで養液栽培を中心に多品種のトマトを栽培し、未来の農業経営に取り組んでいる。

農業はエネルギーの変換事業

農業とは、光エネルギーをH₂OとCO₂を主原料に、糖に変え、人のエネルギーになるように変えること。これは植物の論理、地球の論理が大前提で、少し前まで資本の論理や人の論理で語られることに、抵抗を感じていた。だから第一次生産者の現場の人は従来からSDGsを考えていたと思う。地域が持つ特色に合わせた規模で、地域資源を有効活用することがプロジェクトには重要。

植物と一歩先の未来へ



「常に現場を科学する」研究開発型の農業カンパニーがスローガン。現場の農業者自身が、植物のことに一番敏感で、一番熟知している研究者であると考えている。しかし、そういった企業は国内外にほとんどない。であれば、作っていかうと取り組みを始めた。大学で学んだ優秀な若者が、職業の選択肢として、農業の現場を選んでほしいと思う。そのために、必要とされるプロジェクトや施設の建設を計画し続けている。

2013年松阪市にうれし野アグリ(株)（大手食品メーカーの工場の排熱をハウス内の冷暖房に利用）、2018年いなべ市に(株)アグリット（大手機械メーカーとの合弁会社で約4haの国内最大級の規模を誇る）を設立。そこに共通しているのは地域資源が豊富にあること。海・山・川・里が繋がっているように、その地域にある土地・エネルギー・人、何が欠けても循環しない社会になる。会社としては、そこで活躍する人の育成も重要で、関わる人みんなが豊かになれば理想だと思う。

インタビューの感想

『養液栽培や水耕栽培は、土耕栽培に比べて、一般的に品質に劣るイメージがある』という社長の言葉に、我々一般消費者の持つ情報量の少なさを知りました。実際は、環境負荷も含めて、隅々まで管理された空間で大切に育てられており、その美味しさは土耕栽培に劣る事はなく、企業努力の賜物だと感じました。今や四季を通じてスーパーに並んでいるトマト。購入の際には価格だけでなく、地域資源やSDGsに配慮したものを選んでいこうかと、私自身の食に対するリテラシーは少し高まったように思います。

最近の法規制動向について

墜落制止用器具（安全帯）の構造規格が変更されたのをご存知でしょうか。工場等では周知の通りですが、2018年の政省令改正から猶予期間を経て2022年1月2日に完全施行されました。旧構造規格の安全帯は使用が出来なくなっています。また、次表の通り変更がありましたので、安全対策の見直しをよろしくお願い致します。

項目	変更前	変更後
呼び方	安全帯	墜落制止用器具
墜落制止用器具の種類	胴ベルト型（一本つり） 胴ベルト型（U字つり） ハーネス型	原則：フルハーネス型 6.75m以下では胴ベルト型（一本つり）も可能。 6.75mを超える場合はフルハーネス型（建設業では5m以上推奨）。
特別教育	不 要	高さ2m 以上で作業床の設置が困難な場所でフルハーネス型を用いて行う業務の従事者には必要。

※ちなみに「二丁掛け」とは、ランヤードを2本備えているものを言い、胴ベルト型でも二丁掛けのものがあります。フックの掛替が多い建設業等を中心に広く使用されています。

東海テクノからのお知らせ 「施設園芸・植物工場展に出展します」

当社は7月20日（水）より3日間、東京ビックサイトで開催される施設園芸・植物工場展（GPEC）に出展します。この展示会は、昨今の気候変動や環境変化に対応した次世代の農業技術、施設に特化した国内唯一の専門展示会です。当社は50年にわたる環境測定分析の経験・技術を農業支援に活かしたいと取り組み、昨年愛知で開催された同展示会では多くの反響を頂きました。今回は植物体分析や計装機器の用途活用提案など更にメニューを増やし、皆様のご来場をお待ちしています。（ブース：南3ホール G-11）



社員プチコラム

勇 謙司（環境事業本部 四日市分析センター フィールドGr）

ちょうど1年前に知り合いからメダカを譲っていただく機会があり、飼い始めました。メダカといってもいろいろ品種があり、現在我が家には3品種が仲良く水槽で生活しています。私自身メダカにはあまり興味がなかったのですが、家族が大切に飼育している姿を見てるとだんだん興味が湧き、今ではメダカ関連のイベントがあれば行くほど家族で夢中になっています。現在産卵時期に入っており、メダカ達がたくさん卵を生んで稚魚がすくすく育ってきています。今後は水槽を増設し、メダカランドを構想しています！



編集後記

東海地方も梅雨に入りましたね。雨が降る前にカエルが鳴いて大合唱となるのは、カエルは全呼吸量の30～50%が皮膚呼吸のため、湿度が高いとより活動的になるからの説があります。カエルが元気になる梅雨でも、雨に弱い露地栽培のトマトには厳しい季節だそうですね。農作物の安定供給のための農業関係者の方々の努力には頭が下がります。感謝。（みっちー）

